

スマートシティの推進について



令和3年4月23日
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

スマートシティとはなにか？ ～定義と現状～

定義

- ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）の高度化により「手段」「動作」「状態」
- 都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、
- 持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場である。

スマートシティ
サービス群
(例)



ICTを活用した
e-Learning、
遠隔教育の充実



地域の見守りを
支援し、安心・
安全な街を実現



災害の情報を即時に
取得・発信し、迅速な
避難・復旧を実現



いつでもどこでも
必要な移動・配送
サービスを提供



エネルギー、上下水、
リサイクルなどを
地域内で最適管理



キャッシュレス社会を
実現し、取引を
デジタルで完結



ICTデータの
活用により、
健康寿命を延伸

オープンAPI連携

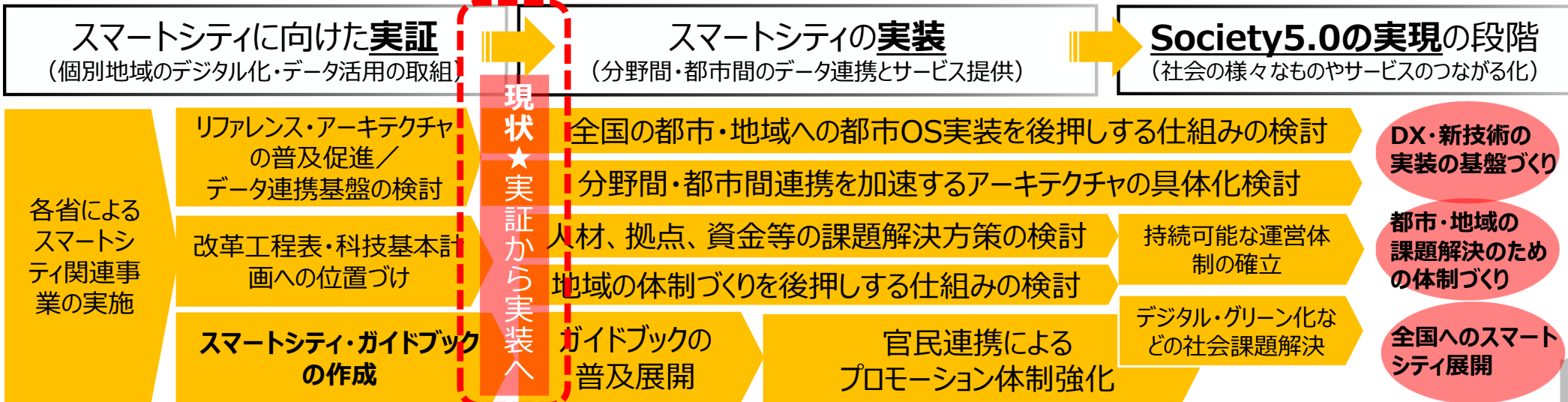
スーパーシティを起点に全国共通的なデータ連携基盤の整備

連携

IT新戦略等に基づくデジタル・ガバメント実現や、データ連携基盤整備の取組

段階

主な国内施策



スマートシティに取り組む上での基本コンセプト

3つの基本理念、5つの基本原則を提示し、これらに基づくスマートシティ構築を推奨



市民（利用者）中心主義

“Well-Beingの向上”に向け、市民目線を意識し、市民自らの主体的な取組を重視



ビジョン・課題フォーカス

「新技術」ありきではなく、「課題の解決、ビジョンの実現」を重視

3つの基本理念



分野間・都市間連携の重視

複合的な課題や広域的な課題への対応等を図るため、分野を超えたデータ連携、自治体を越えた広域連携を重視



公平性、包摂性の確保

全ての市民が等しくサービスを楽しみ、あらゆる主体が参画可能なスマートシティの実現



プライバシーの確保

パーソナルデータの利活用を進めるにあたり、市民のプライバシーの確保を徹底



運営面、資金面での持続可能性の確保

地域に根ざした持続的なスマートシティの実現に向け、運営面、資金面での持続可能性を確保

5つの基本原則

セキュリティ、レジリエンスの確保

プライバシー保護や災害等の緊急事態への備えとしてセキュリティ、レジリエンスを確保



相互運用性・オープン性・透明性の確保

都市OSにおける相互運用機能、オープンなデータ流通環境、意思決定プロセス等における透明性等を確保

スマートシティ推進の全体像

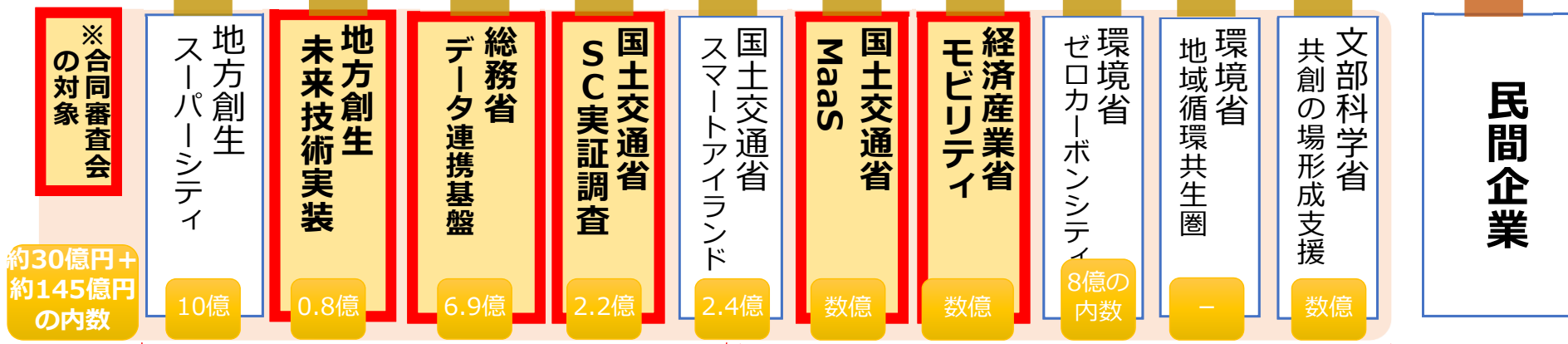
- スーパーシティを頂点に、多様な社会課題に対応できる **次世代のまちづくりを計画的に推進**
- スマートシティに採択された地域を中心に、**国内基盤整備との連携や、民間開発投資** 等と呼込む
- 世界のスマートシティ投資 数兆ドル(推測) に対し、国内**優良事例の国際発信、海外都市開発への展開**

先進都市の事例創出

スーパーシティ (2021年4月以降 指定手続き開始)

スマートシティ (2025年 100地域実装)

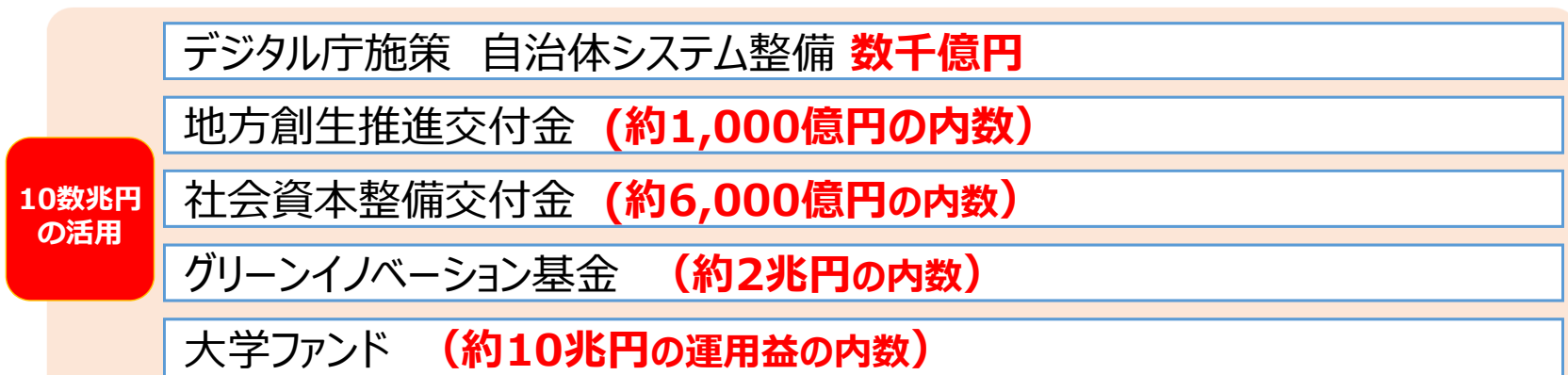
スマートシティ関連事業



分野横断的な取組

個別分野での取組

国内基盤整備・投資



民間開発投資